

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

|       |               |        |                   |         |                            |
|-------|---------------|--------|-------------------|---------|----------------------------|
| 都道府県名 | 長野県           | 事業実施主体 | 長野県、佐久市、小海町、佐久穂町  | 地域再生計画名 | 地域間連携による交流人口と定住人口創出のみち整備計画 |
| 計画期間  | 平成28年度～平成31年度 | 評価責任者  | 佐久市役所企画部企画課長 土屋 孝 |         |                            |

|                              | 指標           |                                   | 基準値               |           | 中間目標値      |   | 最終目標値      |            | 中間評価 | 中間目標値の実現状況に関する評価 |   |
|------------------------------|--------------|-----------------------------------|-------------------|-----------|------------|---|------------|------------|------|------------------|---|
|                              |              |                                   | 基準年度              | 年度        | 年度         | 中間実績  | 基準年度       | 年度         |      |                  |   |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況        | 指標 1         | 地域全体における年間観光入込客数の増加               | 1,914,500人        | H26       | 2,072,300人 | H29   | 2,441,100人 | 2,080,000人 | H31  | ○                | 地域活性化のための各種道路の整備により、H29では中間目標値を上回ることが出来た。現在進捗中の道路整備は順調に進んでいることから、今後も既存の観光資源と組み合わせ周遊性を高めることにより、地域全体の観光入込客数のさらなる増加を目指す。   |
|                              | 指標 2         | 地域全体の定住人口の確保                      | 115,324人          | H27       | 114,502人   | H29   | 114,378人   | 113,680人   | H31  | △                | 交流人口の創出面では大きな結果を残すことが出来たものの、定住人口の創出には結びついていない状況から、中間目標値に対し△124人と下回る結果となった。しかしながら、県の「2017年毎月人口異動調査（年報）年間人口増減」によると、佐久市・小海町・佐久穂町の平成29年中の社会増減は+167人であったことから、一定の成果は見てとれると考える。今後も交付金事業と、社会増のみならず自然克服のためのソフト事業を組み合わせた総合的かつ効果的な事業の推進により、定住人口の増加に努める。  |
|                              | 指標 3         | 佐久市及び佐久穂町地域における搬出材積の増加            | 8,979m³/年         | H26       | 9,087m³/年  | H29   | 10,133m³/年 | 9,159m³/年  | H31  | ○                | 路網整備の促進により中間目標値を上回ることが出来た。今後も林道田口十石峠線の開通や、加えて平成28年度から開始した森林認証によるカラマツを中心とした地域資源の循環利用を佐久地域において推進していることから、目標値を上回る見込みである。   |
|                              | 指標 4         | 小海町地域の農産物加工直売所における農産物の年間販売額の増加    | 18,170千円          | H26       | 19,000千円   | H29   | 26,200千円   | 20,000千円   | H31  | ○                | 地域産業の活性化のための基盤となる道路整備により、地域産物の輸送の効率化が図られ、直売所への農産物の持ち込みが増大したこと、また、都市住民などとの交流が促進されたことにより、中間目標値を上回る販売額実績となった。今後も道路基盤整備の効果を最大限発揮できるよう、各種ソフト事業を組み合わせながら、さらなる実績値の向上を目指す。  |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況 | 指標 1         | 平尾山公園（南北パラダ）の年間入込客数の増加            | 480,200人          | H26       | 631,000人   | H29   | 745,958人   | 631,200人   | H31  | ○                | 【対応する施設名：市道6-74号線（南北線）】<br>市道6-74号線（南北線）の道路整備に併せ、平成28年12月に営業を開始した「平尾温泉みはらしの湯」をはじめとする各種施設の利用促進により、中間目標値を上回ることができた。当該道路は県内で最も多くの観光客入込がある軽井沢町・御代田町からのアクセス道路であることから、引き続き事業を進め、さらなる交流人口の確保につなげる。   |
|                              | 指標 2         | 小海町地域の年間観光入込客数の増加                 | 205,100人          | H26       | 207,600人   | H29   | 194,200人   | 215,100人   | H31  | △                | 【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】<br>町道小倉原線、広域農道佐久南部地区の整備により、マイカーで山間部のレジャー施設を訪れている人がやや増加しているものの、現状では最終目標値を下回る可能性がある。交流人口創出のためのソフト事業を併せて推進することにより、道路整備の効果を最大限発揮できるよう努めていきたい。   |
|                              | 指標 3         | 佐久市望月地区の人口減少の抑制                   | 9,335人            | H27       | 9,289人     | H29   | 9,030人     | 9,242人     | H31  | △                | 【対応する施設名：市道67-7号線（東西幹線）】<br>市道67-7号線（東西幹線）の整備と地域資源を活用した魅力の発信により定住人口の創出を図っているものの、中間目標値を下回る結果となった。整備箇所近辺には高原野菜の一大産地である長者原地区があるが、現在、生産関連施設の整備支援を行っているほか、農産物のブランド化の推進のための事業を推進し、農業の生産性の向上・市場価値の向上を図る「しごこの創生」に別途重点的に取り組んでいる。東西幹線の開通により農産物の輸送の効率化が図られ、一層の農業振興が期待できることから、今後も事業完了に向け当該道路の整備を進め、ハード事業・ソフト事業の両輪により雇用の創出を図り、定住人口の創出を目指す。 |
|                              | 指標 4         | 星見ヶ丘別荘地の定住人口の増加                   | 45人               | H27       | 55人        | H29   | 43人        | 65人        | H31  | △                | 【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】<br>別荘自体の転売を目的に不動産事業者が仲介した売買は増加したものの、定住者の獲得には至っていない。平成29年9月に広域農道佐久南部地区、平成29年10月に町道小倉原線がそれぞれ開通したが、定住者の獲得のためのソフト事業を推進することにより、最終年度の目標の達成を目指す。   |
|                              | 指標 5         | 佐久市及び佐久穂町地域の林内路網密度の向上             | 30.0m/ha          | H26       | 30.4m/ha   | H29   | 31.1m/ha   | 30.6m/ha   | H31  | ○                | 【対応する施設名：林道大河原線、林道田口十石峠線】<br>林道大河原線、林道田口十石峠線や作業道等の開設が進み、林内路網密度の向上は順調に図られている。林内路網密度の向上は、森林内での作業効率の向上につながり、森林管理の観点から非常に重要であることから、今後も期間内の事業完了を目指し、数値のさらなる向上を図る。  |
|                              | 指標 6         | 中部横断自動車道八千穂IC（仮称）～松原湖高原観光地の移動時間短縮 | 25分               | H27       | 19分        | H29   | 19分        | 19分        | H31  | ○                | 【対応する施設名：町道小倉原線、広域農道佐久南部地区】<br>広域農道佐久南部地区、町道小倉原線がそれぞれ開通したことにより、目標としている移動時間の短縮が図られた。   |
| ③事業の進捗状況                     | 事業名          |                                   | 整備量（その他の事業では取組内容） |           |            | 事業の進捗状況に関する評価   |            |            |      |                  |   |
|                              |              |                                   | 計画                | 中間年度（H29） | 最終実績見込み    |   |            |            |      |                  |   |
| 特別措置を適用して行う事業                | 市道整備事業（整備延長） |                                   | 0.6km             | 0.2km     | 0.6km      | 【市道67-7号線（東西幹線）、市道6-74号線（南北線）】<br>道路整備により観光施設への入込客数は増加しているものの、定住人口の増加にはつながっていない状況である。ハード面における計画期間内での事業完了はもちろんのこと、交流から移住へつなげるためのソフト事業も併せて推進し、交流人口、定住人口の創出を目指す。 |            |            |      |                  |   |
|                              | 町道整備事業（整備延長） |                                   | 0.7km             | 0.7km     | 0.7km      | 【町道小倉原線】<br>平成29年度では小海町地域の年間観光入込客数が中間目標値を達成できなかったものの、平成30年4月の中部横断自動車道佐久南IC～八千穂高原IC間の開通により、今後、観光・交流拠点施設への流入増加が図られ、交流人口の拡大が期待される。                               |            |            |      |                  |   |

|               |  |                                     |       |  |  |
|---------------|--|-------------------------------------|-------|--|--|
| 特別措置を適用して行う事業 | 林道整備事業（整備延長）   | 1.6km                               | 0.6km | 1.6km  | 【林道大河原線、林道田口十石峠線】<br>林道整備により、林内路網密度の向上と搬出材積の増加が図られた。今後も計画期間内の事業完了に向け、引き続き整備を実施したい。また、林道大河原線の開通は、ヒルクライム佐久（自転車ロードレース）の開催や森林認証など、観光・林業振興による地域活性化へも寄与している。 |
|               | 広域農道整備事業（整備延長）   | 0.4km                               | 0.4km | 0.4km  | 【広域農道佐久南部地区】<br>平成29年9月に本線が完成。KPI⑥は達成したものの、KPI②及び④は中間目標値を達成できなかった。平成30年度に付帯工を実施し、広域農道整備事業の完了を目指すとともに、交流人口・定住人口創出のための施策を併せて推進し、各目標の達成を目指したい。            |
| その他の事業        | 温水利用型健康運動施設整備及び管理運営事業  | 「平尾温泉 みはらしの湯」の整備及び管理運営              |       | 「平尾温泉 みはらしの湯」は平成28年12月に開業し、平成29年度は当初目標として20万人の入込を予定していたが、実績は約21万6千人と当初の見込みよりも多くの来客があった。引き続きスキー場、佐久平スマートIC等とのアクセス改善のための事業を進め、交流人口の創出につなげたい。   |  |
|               | 星見ヶ丘別荘地分譲促進事業  | 星見ヶ丘別荘地の分譲                          |       | （一社）小海町開発公社と小海町の観光部門が共同で首都圏や中京圏へのPR活動を実施し、別荘地の分譲と定住人口増加の促進を図ったが、分譲数の増大には繋がらなかったものの、取引自体は活発化してきている。平成30年4月には中部横断自動車道佐久臼田ICー八千穂高原IC間が開通したことから、開通効果を最大限生かしながらソフト事業も併せて進め、関連目標の達成を目指す。           |  |
|               | 森林環境保全対策事業   | 間伐等の森林整備（林野庁事業）                     |       | 林道大河原線は国有林に面しており、平成28年度・平成29年度は実施していないが、平成30年度では間伐作業を実施している。最近ではJAXAによるパラボラアンテナの整備が近辺で行われており、見学者も多くいることから、林業のみならず観光業の振興と多分野にわたる産業振興を目指し、交流人口と定住人口の創出を目指す。                                    |  |
|               | 農産物加工・販売促進事業   | 「小海町農産物加工直売販売所」や「八峰の湯」における農産物の加工・販売 |       | 「小海町農産物加工直売所」や「八峰（やっほう）の湯」（温泉施設）において、地域で生産された農産物の加工・販売を促進し、農業の6次産業化を推進したことから、中間年度における数値目標（小海町地域の農産物加工直売所における農産物の年間販売額の増加）の達成を実現できたと考えられる。平成30年度も大幅な売上増がもたれていることから、今後も関連事業を推進し、最終目標の達成を目指したい。 |  |
| 計画外で独自に実施した事業 | -  |                                     | -     | -  |  |
| ④評価方法         | 長野県人口定着・確かな暮らし実現会議、佐久市総合計画審議会、佐久穂町地方創生推進会議、小海町長期振興計画審議会及び評価会議において効果検証を実施   |                                     |       |  |  |
| ⑤中間評価の公表方法    | 長野県、佐久市、小海町、佐久穂町のホームページに掲載   |                                     |       |  |  |
| ⑥計画全体の総合評価    | 本地域再生計画では、市町道整備では自治体各所の道路改良により安心安全な道路環境の実現に寄与するとともに、林道整備では開設及び舗装改良を行うことにより搬出材積が増加し林業振興が図られ、農道整備では農産物流通の合理化が図られた。また、市町道、林道、農道の一体的整備によるネットワーク化が進んだことにより、地域全体における年間観光入込客数が増加したなど、事業効果はあったものと考えている。  |                                     |       |  |  |
| ⑦今後の方針等       | 地域間ネットワーク整備による地域活性化については一定の効果があったと考えられるものの、例えば数値目標2の定住人口は減少傾向が続いており、定住人口の確保が課題となってくる。有識者会議においても、「地域住民に実施事業を十分に周知されたい」「道路整備について、有利な財源を活用しながら進めていただきたい。どこの自治体も厳しい財政状況の中で、積極的な財源確保が求められていることから、地域の強みや特徴を諳み、他の自治体と差別化を図りながら進めていただきたい。また、活用に当たっては、例えば林道では林業振興だけでなく、観光振興など地域の活性化に資する取組にも併せて努めていただきたい。」といった意見が出されていることから、ハード事業と計画に記載されたソフト事業のみならず様々な人口確保施策を組み合わせ、地域間ネットワーク整備の効果が一層図られ、目標を達成できるよう各種事業を進めていきたい。 |                                     |       |  |  |